

ふじしろ政夫と共に市政を変える会

発行 ふじしろ政夫と共に市政を変える会 ニュース04年7月号
〒273-0122 鎌ヶ谷市東初富5-24-50 Tel.047-445-9144 (FAX兼用)
ホームページ <http://chiba.cool.ne.jp/fuzishiro> E-メール masao.fujishiro@zc.wakwak.com



何を選択すべきなのか？！

ふじしろ政夫

- 6月議会の中で、清水市長は、①市民参加と協働によるまちづくり
②首都圏の新たな交流拠点という可能性を活かしたまちづくり
③どこの自治体よりも住みやすい福祉と教育と安全のまちづくり
と三つ柱を提案しました。

わたし達の鎌ヶ谷市にとっては、市民ひとりひとりが、自分達のまちを自分達でつくっていきける“住民自治”のまちを創り出せるか否かが、これからの大きな分岐点になるのではないのでしょうか。

財政的にも政治的にも自立しなければならない地方分権の時代。これまでのように、国・県からの補助金や、指導に頼ってはいられません。大きく流動する経済と社会の中で、行政は果たさなければならないその役割を十分に把握し、まちの方向性を創りあげていかなければなりません。

その為にも、自立した市民が、積極的に市政へ参画していくシステムが必要です。市民はその一步を、歩みだすべきでしょう。

また、市民が個人の尊厳が尊重される自治体を、つくっていかようとしている中、日本の国のありようは、大きな岐路に立っています。昨年来のイラクへの自衛隊派遣・そして、今後の多国籍軍への参加は、国のありようを根本から変えてしまっています。

戦争（軍事力）で、政治の問題を解決するのか、非軍事で解決の道を模索するのか。これからの21世紀の日本の方向を『憲法9条を争点として』、私達は、選択しなければなりません。この世に生まれた一人一人の個人の命の尊厳から、見極めていきましょう。

＜6月議会で決まったこと＞

□「障害」→「障がい」と改めるための関係条例を整備（議案第2号）

鎌ヶ谷市では、ノーマライゼーションの基本理念のもと、障がいがある人もない人も、誰もがありのままにそのひとらしく地域で暮らすことができる、福祉のまちづくりを目指しています。「害」は、一般的にマイナスイメージを想起させ、障がい者にも不快感を与えるので、当事者からの要請に応じて、「心のバリアフリー」を除去するために、全庁的に「障がい」とすることが決定されました。

□介護予防検討協議会を7月頃に立ち上げ、有効な介護予防プログラムをつくり、モデル事業を実施しようとする補正予算279万円が可決しました。

□5月7日付け市長の専決処分：鎌ヶ谷中学校敷地の一部（昭和29～30年購入市所有財産未登記）を登記するための費用552万4千円補正予算

※6月号ニュース掲載「議案第1号特別職の職員等の給料改定案」は、上程の予定でしたが、上程されませんでした。



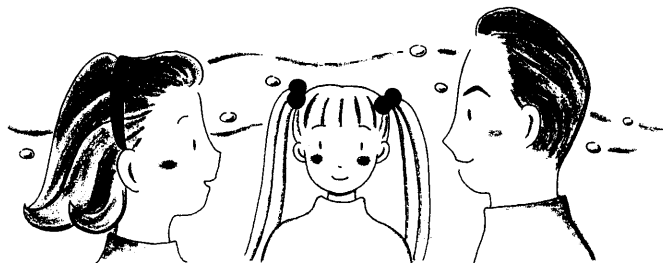
一般質問の質問と答弁

☆軽度発達障害（LD、ADHD、高機能自閉症）児に対する特別支援教育について

軽度発達障害児は約6%在籍

質問（藤代議員）：学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、高機能自閉症など軽度発達障害の児童・生徒の鎌ヶ谷市の実態は？

答弁（教育長）：学校生活に不適応を起している児童・生徒は、軽度発達障害を含めて、小学校では54人（0.99%）、中学校では28人（1.12%）です。全国調査平均では特別な教育的支援を必要とする児童・生徒は約6%の割合で在籍しています。



一人一人の教育的ニーズに応じて

質問（藤代議員）：文部科学省は「特殊教育から特別支援教育への転換」と言っているが、その意味は？

答弁（教育長）：障がいの種類、程度等に応じて特殊学級・養護学校等の教育の場で指導が展開されてきた特殊教育から、障がいの程度にかかわらず、一人一人の教育的ニーズに応じて特別の教育的支援を行う特別支援教育へと転換していきます。通常学級における軽度発達障がい児への適切な教育が必要になります。



支援体制をおそまきながら懸命に始める

質問（藤代議員）：ノーマライゼーション社会を目指している地域福祉、普通学級で対応していくインクルージョン教育の流れの中、我孫子市では、乳幼児から就労までの一貫性の中で、ネットワークづくり、教育と福祉との協力体制など「特別支援教育推進計画」がつけられています。又袖ヶ浦市、

千葉市では普通学級でADHD児らを支援する為担任以外に特別支援教員を付けていますが、鎌ヶ谷市はどのように対応していきますか。

答弁（教育長）：残念ながらそこまでいいいきません。しかし、遅まきながら懸命に始めております。校内委員会、特別支援教育コーディネーターを設置して体制を構築しているところです。実態の把握と教員への研修を実施していきます。

当事者が選択権をもつのが原則

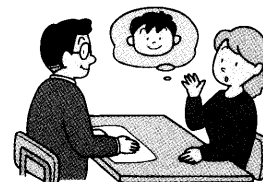
質問（藤代議員）：障がい者当事者が普通学級を含め、選択権をどう保障されますか。

答弁（教育長）：就学先の決定について児童・生徒そして保護者が選択権をもつのが原則です。

特別支援教育へ十分なとりくみを

質問（藤代議員）：特別支援教育についての市長の考えは？

答弁（市長）：特別支援教育は福祉と教育とにかかわる重要な課題と認識しております。又、国が転換した意味あいを受けとめて十分なとりくみをしていく決意です。



☆住基ネットと個人情報保護条例

住基ネットの問題点解決していない

質問（藤代議員）：住基4情報（住所・氏名・生年月日・性別）は重要な個人情報であるという共通認識は出来ましたが、昨年6月議会以降指摘した住基ネットの問題点は解決しましたか。

答弁（市民部長）：本人確認情報が国でどう使用されたかの開示請求調査権はまだ市に与えられていません。又、住基カードの多目的利用については、今後も慎重に対応していきます。

緊急時対応指針の中味を精査

質問（藤代議員）：鎌ヶ谷市の住基ネット緊急時対応指針は県や他市と異なりレベル1から3までの

他にレベル4を設定しています。しかし、レベル3までの県の方が鎌ヶ谷市よりも不正が発生した際いち早くネットへの接続を停止することになっています。

’02.8.9市長声明の意志が反映されていないと思われませんか？

答弁（市民部長）：誤解や混乱があるようなら改善しなければならない。今の指針がすべてだとは思っていません。中味をさらに精査していきたい。



オンライン結合時審議会の意見を聴く方向で検討

質問（藤代議員）：鎌ヶ谷市の個人情報保護条例、平成14年改正で住基ネットとの整合性という理由でオンライン結合でも法令に定めあるときは審議会へ報告するだけでよくなってしまいました。住基ネットは自治事務、責任は自治体にあります。市民の個人情報を第三者機関を含めて慎重にとりあつかっていくのが行政の責務だと思います。

条例の見直しが罰則規定を含めて、総務省から言われております(03.6/16 通達)、“審議会の意見を聴く”という方向に改めるべきだと思いますが。

答弁（総務部長）：オンライン結合、罰則規定、この二点に関しましては、再度精査すると共に、個人情報保護審議会にも意見を聴きながら、条例改正に向けて、前向きに検討してまいります。

☆教育環境保全条例とその運用基準の整合性は？

条例の目的を遵守して

質問（藤代議員）：6月1日から施行されましたが、風俗営業者へ市長の協力要請をするか否かの基準が「青少年が利用可能な施設であるか否か」であること、又「同一敷地内に同種風俗営業であれば新築でも届出がいらぬ」という、運用基準は、教育環境保全条例の目的との整合性でどうなのだろうか？

答弁（生涯学習部長）：今後、青少年をとりまく環境も変化することが考えられるが、条例の目的を遵守した運用をしていきたい。



ホタルの里



谷津の自然を保全しよう

グリーンハイツのとなりにある「ホタルの里」をおとすれました。

地主の方々の善意から土地を借り、無農薬の田んぼ、湿地のよしの原、ビオトープがつくられています。花しょうぶも今盛りとうす紫の大きな花を咲かせておりました。

谷津の湿地帯を保全・再生していくことで、鎌ヶ谷らしい緑のネットワークが出来るのではないかと思います。

手賀沼・印旛沼・真間川・海老川の各水系の分水れいに位置する鎌ヶ谷市。中沢、佐津間、軽井沢などに谷津が多く残り、自然がそこに生きています。心がほっとする自然豊かなまちをつくっていきましょう。



自立した市民自治を！



——福嶋我孫子市長語る——

我孫子市長福嶋さんの話しを聞く機会がありました(白井市&船橋市にて)。市民自治の適正規模、そして改革とその目ざすまちづくりを明確化するなかで合併等を考えるべきこと。議員の要望、働きかけ等を全て文書化し公開させる情報の徹底的な公開。直接民主制が自治の基本であることの当然の帰結としての住民投票制度の常設化。などなど、我孫子市の歩むべき立場と視点が語られました。

もたれあいではなく“自立した者どおしの関係”として、市民と行政と企業との関係を構築(協働)していく必要が。行政は市民感覚へと変らなければならない。市民も又行政への陳情政治の延長でない市民自からが合意を形成していく自治力を獲得していく為に変らなければならないと指摘されました。

『協働という試行の中で、いっぱい失敗し、いっぱい試行錯誤していく、その先にしか市民自治はない』という福嶋市長の言葉がすべてを語っておりました。

自立した市民と自立した行政との協働を責任と決断力のある力強いリーダーシップで……これが我孫子市が求めている市民自治なのでしょう。

市民の声

「肢体不自由の子供達が

地域で生きるために…」

鎌ヶ谷市肢体不自由児・者を育てる会

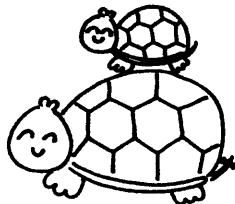
「ポコ・ア・ポコ」代表 関口恵子

日頃、市外（船橋・松戸）の養護学校に通う本会の子供達は、車椅子生活のため、1人で出掛ける事は難しく、市内で姿を見る事は少ないと思います。市外への通学は、送迎に時間を多く必要とし、保護者に身体的負担がかかっているのが現状です。そして毎日時間に追われうっかり養護学校生活12年間で過ごしてしまうと、卒業後の地域における進路先の不安と、地元の人とふれあい機会があまりなかったのが孤立してしまうことも考えられます。現在は、ポコ・ア・ポコの休日活動を通して少しずつボランティアさんと買い物や、公園散策などで交流させていただき、子供達は日常生活に必要な体験をしています。

6才から12年間「よく頑張ったね」と卒業後は安心して地域に帰ってこられ

るように、肢体不自由児・者が、生涯安心して通える施設の確保と、身体が変形してかたくならないように肢体機能維持訓練を欠くことのないよう支援の充実を願っています。

ポコ・ア・ポコ



今ここで政治を変えなければ……

松戸から鎌ヶ谷に移り住んで5年。仕事や活動（平和や人権）を松戸で行っているせいか、鎌ヶ谷ではなんとなくお客様気分であったような気がします。藤代市議を通して、鎌ヶ谷でも平和問題に多くの方が取り組んでおられるのを知り、本当に良かったと思います。それにしてもまた、小泉首相は国民を無視して、自衛隊の多国籍軍への参加を宣言しました。また、有事関連7法案も年金法案で国会がもめているどさくさに、決まってしまうというお粗末さ。今ここで政治を変えなければ、日本は戦争のできる国になってしまいます。私たちが地域の中で何ができるのか、藤代さん達と一緒に考えていきたいと思っています。

戸部光枝さん

かまがや行革アクションプラン 100

平成15年度進捗状況

－3億8704万円の財源効果

平成15年から5年間で33億円の財源不足が生じてしまう現状を、行革アクションプラン100の実施で、解決していこうと力強く動き始めました。1年目の実績は、3億8704万円の減額効果です。契約方法の見直しにより、委託料を6600万円減らし、プラスチックごみの分別収集で、3700万円の処分費が削減されました。職員給与の抑制などで、人件費が約2億582万円削減されました。

ふじしろ政夫の市政報告会

7月18日（日）13:30～

まなびいプラザ

○早稲田大学まちづくりシンポジウム 2004

7月9日 10日 3000円

早稲田大学国際会議場

実行委員会 03-5286-3285

○「非核平和都市宣言20周年記念」

平和イベント in かまがや

7月19日 13:00～

総合福祉保健センター

小林正弥教授のお話し・平和コンサートなど

○津久井清市政報告会

7月24日 南部公民館 14:00～

予告 楽しい納涼会

8月22日 お昼頃から 会費（未定）円

市民キャンプ場（南部公民館となり）



きょうどう事務所トライ 予定

☆無料弁護士法律相談 13:00～

7月17日 要予約

9月25日

☆市政なんでも相談 ふじしろ市議

7/7 13:00～

7/21 10:00～

☆囲碁の会 13:00～

7/2 7/16



「ふじしろ政夫と共に市政を変える会」に入会
しませんか

047-445-9144 1年会費 1000円